➢ 脳神経内科

脳神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

◆主疾患を含む治癒方針と概要

・脳卒中

脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。年間200から250人、主に虚血性脳血管障害中心に担当。

毎日24時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。

・超急性期加療

脳梗塞の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づきt-PAを用いた加療を行っており、脳外科とのチーム医療で必要例には、投与後血管内手術の併用療法を行っています。

・ボツリヌス局所療法

眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頚・上下肢痙性に対しての局所注射療法

短時間で、外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行。年間50人から70人ほど施行。

・変性疾患

パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性性側索硬化用症など多数が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け入れています。

・認知症

画像検査などを用いて診断を行い、地域医療機関と連携して治療を行っています。

・自己免疫性疾患

多発性硬化症、ギランバレー症候群、CIDPなど、急性期治療と維持療法を行なっています。

◆主疾患治療プロトコール

①脳梗塞:三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用

②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頚・上下肢痙性:ボツリヌス局所注射療法

③パーキンソン病その他、神経変性疾患の精査入院

④多発性硬化症の免疫調整薬導入入院

⑤CIDPなど免疫疾患のγグロブリン大量療法(IVIg療法) (短期入院、外来維持投与)

⑥他

・日本内科学会認定医3名・総合内科専門医１名・指導医１名

・日本神経学会専門医常勤3名・指導医１名

・日本神経学会准教育施設

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。